

令和5年度 学校評価書 山形県立村山特別支援学校山形校

<p>【学校教育目標】 すすんで学び、よりよく生きる人を育てる</p> <p>【めざす子ども】 心も体も元気な子ども 生活する力のある子ども 自分の思いや気持ちを伝える子ども</p>	<p>【教育方針】</p> <p>(1)一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力(育成すべき資質・能力)を整理します。</p> <p>(2)必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身ではなく主体的にすすんで学び身につける日々の授業を展開していきます。</p> <p>(3)卒業後の生活の中で、暮らすことや働くこと、余暇を楽しむことなど、生涯にわたってよりよく生きることができる人を育てていきます。</p>
---	---

評価方法:教員・保護者とも【めざす学校】及び【今年度の重点】に沿った評価項目を設定し、4段階で評価。

評価基準:A(できた・そう思う)、B(ややできている・だいたいそう思う)、C(あまりできなかった・あまり思わない)、D(できなかった・まったく思わない)

達成度:AとBの合計(%) A達成できた(80%以上)、Bだいたい達成できた(60~79%)、Cあまり達成できなかった(40~59%)、D達成できなかった(39%以下)

【今年度の重点】「安心、安全な学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	○次年度の取り組みや課題に対する改善策
① 感染症・熱中症防止の適切な対応をした学習活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のための環境整備と日々の健康観察の徹底。 ・手洗い、換気、咳エチケット等の継続指導。 ・熱中症防止のための学習活動の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室への CO2 モニター、サーキュレーターを各教室に設置することで予防のための環境を整えることができた。 ・手洗いや換気など、引き続きの感染防止対策に取り組むことができた。 ・熱中症事故防止の指針を設定、計測や情報収集の方法を見直して取り組むことで、安全な学習活動を行うことができた。 	A (97%)	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症を予防するための、個々の取り組み・環境整備については、新たな対応策なども取り入れながら、今後とも継続して進めていく。 ○熱中症事故防止については、学校状況に応じたより適切な指針を設定して、常に見直しを行いながら進めていく。 ○校内のケース会については、児童の支援に様々な視点から話し合える機会であるので、活用例を職員に周知し、働きかけていく。 ○ヒヤリハットはすぐに記録することに加えて、その日のうちに全職員に共有して、注意喚起をすることにも取り組んでいく。 ○安全管理マニュアルについては、年々増えてくる対処事項が増えてきているので、スピーディな対応をしていく。
② 家庭や関係機関との情報共有・共通理解による連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭及び放デイ事業所等との日常的な連携 ・ケース会の活用と関係機関との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や放デイ事業所とは、登下校時の際に児童の様子についてやり取りを行い、必要な情報を短時間で共有している。 ・必要に応じて外部の方を交えたケース会を実施し、対象児童について関係職員全員でより良い支援について確認することができた。 		
③ 安心して学校生活を送るための安全な学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・定期の安全点検と日常的な安全管理。 ・ヒヤリハット・事故事例の速やかな職員間での共有。 ・緊急時等における安全管理マニュアルの見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検を行うことで、事故防止につながると考えられる場所への対応を行うことができた ・プール学習時の緊急・連絡体制や J アラート発信時の避難など、新たな対応を検討して取り組むことができた。 		
【今年度の重点】「一人一人に応じた指導・支援の充実」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	○次年度の取り組みや課題に対する改善策
④ 個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づいた指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりにおける個別の指導計画等の日常的な活用。 ・学習グループ・形態の工夫。合同学習時の T.T.の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画をもとにして単元計画を立てて、学習活動を行うことができた。 ・児童の実態から、小・大集団(合同)の様々な学習形態で集団参加を促す学習ができた。 	A (95%)	<ul style="list-style-type: none"> ○児童数の変化に合わせて、単元の内容・グループの構成など個別の支援計画からの実態もふまえて計画していく。 ○ICT を利用し、授業カードや資料など各教員が作成したものを蓄積・共有化して、今後の教材作成の際の参考にするなどの活用も進めていく。 ○授業カードをより使いやすいものにするために、盛り込む内容をどのように整理していくかを考えていく。
⑤ 指導目標と評価の一体化を意識し、授業カードを活用した授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業カード活用の習慣化、学習評価に基づく継続的な授業改善。 ・担任会、評価検討会での学習における児童の姿からの振り返り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業カードを活用することで、合同学習時などで指導にあたる教員が共通の認識を持って活動を進めることができた。 ・担任会では、それぞれの児童の様子について共通理解を図り、個に応じた支援について話し合うことができた。 		
【今年度の重点】「楽しく充実感のある授業の改善」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	○次年度の取り組みや課題に対する改善策
⑥ 地域の人材や環境を活かした学習活動と交流学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材、学校周辺の資源を生かした校外学習の充実。 ・山五小及び地域の学校との交流及び共同学習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方によるお話の会(読み聞かせ)を今年度から再開し実施できた。 ・山形五小おひさまコンサートへ参加、居住地校交流については、2校実施することができた。 	A (83%)	<ul style="list-style-type: none"> ○山形五小行事への参加による交流は今後も進めていく。日常的な交流などもそれぞれの学校の考えをすり合わせながら行う。 ○新しいテーマのもとで 1 年次の研究を進めてきた。2 年次については方向性を早めに提案、確認して取り組んでいく。 ○ICT 利活用については、ミニ研修会で行ったことも授業中の実践にも取り組んでいく。 ○オンライン等による研修会への参加は今後も継続して行い、成果を周
⑦ 学校研究や ICT 利活用、研修による専門性の向上 【教員のみ評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校研究の取組との授業研究会の実施。 ・ICT 利活用による授業の実践。 ・オンラインの活用による各種研修会への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校研究として一人一実践の授業研究に取り組むことができた。 ・ICT 機器利活用のミニ研修会を行うことができた。 ・長期休業等を活用して、オンラインやオンデマンドによる研修を実施することができた。 		

				知る機会も設け、共有していく。
【めざす学校】「相談や支援を受けられる、頼りになる学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	○次年度の取り組みや課題に対する改善策
⑧ 地域における特別支援学校としてセンター的機能の充実 【教員のみ評価】	・教育相談への全校体制での対応。 ・学校見学、巡回相談等への速やかな対応。	・就学に係る教育相談の件数が増えたが、児童支援や報告書作成など全員で協力しながら進めることができた。	A (100%)	○教育相談での児童対応については複数の教員も参加して、より多くの人でかかわれるようにしていく。 ○巡回相談の依頼に対しては、担当以外でも校内での人員の調整をして、実施していく
【めざす学校】「働きやすい、やりがいのある学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	○次年度の取り組みや課題に対する改善策
⑨ 会議や打ち合わせを効率的に進め、執務時間を確保	・事前の資料配布や協議事項を絞るなどの取組み ・ICTを活用した資料等の共有化	・担任会などは、協議すべきことがあるかを主担当が事前に確認、調整することで、会議の回数を減らして個々の業務時間を確保できた。	A (89%)	○教員用の情報端末が整備されたので、それらを活用しデータの共有化や会議資料のペーパーレス化、情報交換などICTの活用を図っていく。 ○状況によっては、同日に一斉退校が難しいこともある。実施日の変更など柔軟に対応しながら今後も取り組んでいく。
⑩ 計画的な仕事の取り組みによる勤務時間管理 【教員のみ評価】	・客観的方法による時間管理と一斉退校日の設定。	・一斉退校日については、月4回を設定し、ほぼ計画通りに実施することができた。		